

日本一絆一モンゴル

2018年4月発行 No.2

日本モンゴル障がい児交流会代表 日本サーバス近畿支部長

ここ数日の温かさに桜が一気に開花し、春爛漫の今日この頃です。

モンゴルとの交流にいつもご協力くださり、ありがとうございます。



前回2017年に絆をお届けして以来、モンゴルキャンプ参加者は2018年モンゴルの障がい児家族を日本にお招きして、日本の現状を学んで頂き、日本・モンゴルの障がい児家族がお互いの絆をさらに深め、力を合わせて子供たちの良き未来を目指せる事を願って行う次の交流会に向けて準備を進めてきました。私たちは海に面していないモンゴルの子供たちに水辺の体験をさせてあげたいと思い、戸外での活動が寒くも暑くもなく、日本の子供たちも参加できる時期という事で5月のゴールデンウィークを挟む日時を選びました。モンゴルからは水族館、プールに行きたい、ショッピングをしたいという希望が寄せられました。それらを考慮して次期交流会の骨子を次のように決めました。

時期：2018年5月3日～9日

場所：大津市 フィンランド学校を中心に行う。

フィンランド学校は、元々フィンランドの子供たちのための学校でしたが、現在は当初の目的では不要になり、宿舎付きでイベントが出来るようになっている所です。

費用：モンゴルの方の日本滞在中の費用は土産等個人的な支出を除いて、日本側で支援金を集め、無料にする。日本参加者は実費負担とする。

人数：日本・モンゴルとも障がい児家族10名、サポーター5名を基本とする

交流会を目前にして、現在の参加者はモンゴルからは17名（障がい児家族11名、サポーター6名）、日本からは日帰りを含めて18名（障がい児家族6名、サポーター12名）となっています。

支援金40万円余もほぼ集まって、次の日程で行うように予定しています。

5/3(木)	関空着 11:20 学校に到着後、学校付近の散策
5/4(金)	午前 瀬田川リバークルーズ 午後 南郷水産センター
5/5(土)	学校にて 午前 共同制作 ゲーム大会 午後 皆でパーティ「再びこんにちは」 終了後ゲーム大会
5/6(日)	琵琶湖畔の「におの浜ふれあいスポーツセンター」でプールを楽しんだ後、琵琶湖畔で昼食と散策、マックスバリュ膳所店等でのショッピング
5/7(月)	午前 東本願寺拝観 午後 イオンモールでショッピング
5/8(火)	京都梅小路公園で京都市水族館等を楽しむ 帰りに下京健康友の会でバザー用品からモンゴル参加者が希望の品をもらう
5/9(水)	モンゴルへ帰国 関空発 12:25

日本・モンゴル障がい児家族の交流

キャンプを機会に日本・モンゴルのキャンプ参加者同士がどのように交流をしているか、その一旦を紹介いたします。

キャンプ参加者より

はじめまして。大阪 LD 親の会「おたふく会」の会員です。家族 4 人で、2016 年 8 月のモンゴル交流キャンプに参加させていただき本当にありがとうございました。私には二人の息子がおりますが、上の子は柔軟なコミュニケーションが難しく、下の子は知的重度の自閉性障害があります。しかし、モンゴルの草原ではそんな事は何の意味もなく、あちらの子供たちと元気いっぱい駆け回り、馬に乗り、スポーツで競い合い、言葉などいらない沢山の貴重な体験をさせて頂きました。上の子供には特に、ヒツジを目の前でさばいていただくことで命を貰うことの重さ、自分たちが食べているものへの感謝を実感し心に響いたようでした。下の子は馬に一人で乗せてもらい（日本では考えられません！）あちらの子供たちに引っ張りだこで遊んでもらった結果、帰国してからは言葉も増え見違えるように成長したと感じます。



モンゴルにて

日本に帰ってからも Facebook やメールを通してモンゴルの人たちとの親しい付き合いは続き、一ヶ月もしないうちにモンゴル側の責任者 H さんの妹で、島根に留学中の S さんが家に泊まりに来られました。私と H さんとはキャンプの間、お互いまるで姉妹のように親しみを感じ合い、夜のキッチンでは H さんにモンゴルの家庭事情や社会情勢など、普通一週間では得られない程の知識と情報をたくさん与えていただきました。私も H さんや周りの人たちに親が困難を感じる時のある特別な子に対する子育てのアドバイスをしたりして、お互いとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

その妹 S さんとは大阪のとある駅で会ったとたん意気投合し、まるで以前からの友人の様に二人であちこちに出かけ、一緒にショッピングを楽しんだり食事をしに行ったり、大使館での手続きを手伝ったりしました。歩いて大阪中を回ったので、その間ずっといろいろな話をされていて、S さんは島根大学で社会学を専攻されていたこともあり、モンゴルの教育や政治の事をたくさん教えてもらいました。そこで感じるのはモンゴルの女性たちの向上心、勉強熱心さです。自国の役に立ちたいという思いがとても強く、国が良くなるにはまず教育が大切である。それを感じてからは、自分の国で子供たちにしっかりと教育できる施設を作りたいという目標が出来たようです。日本のあちこちを巡り、保育園や学校を見学し、ゆくゆくはモンゴルから先生たちを呼び寄せ教育的なキャンプを主宰したいそうです。一方、モンゴルにいる友人たちも自閉症協会を作り活動したり、スポーツ分野での子供たちの活躍を後押しして頑張っています。皆、自分の国を前に進ませたい、良くしたい、という情熱を持って取り組んでいます。



S さんと子供たち大阪にて

更に若い子たちも、日本に来て、日本の言葉や文化を学びたいというメッセージをくれます。距離が離れているのに不思議とモンゴルの人たちは日本人と性質がよく似て、誠実で真面目で控えめながらも勤勉で努力家です。日本にとっても、豊かな資源や親和性の高い人々の多いモンゴルは色々な可能性を持ったパートナーシップを築くべき相手だと感じます。

今後ともモンゴルの発展の為、日本とモンゴルの絆を更に強いものにしていきたいと思っています。

日本モンゴル障がい児交流会規約

目的	モンゴルの障がい児及び障がい者がより良い環境の中で過ごせるように、日本、モンゴルが力を合わせて取り組む
活動	上記の目的が達せられるよう、創意、工夫をこらして、活動する
本部	本部は日本モンゴル障がい児交流会代表宅とする
代表	日本サーバス近畿支部長
運営委員	日本サーバス近畿支部役員 7名 近畿支部に属するサーバス本部役員 2名 大阪 LD 親の会「おたふく会」会員 1名 モンゴルキャンプ参加者 1名
会計	日本サーバス近畿支部役員より 1名
会計監査	モンゴルキャンプ参加者より 1名
会員	モンゴル障がい児教育研修にご協力くださった方、モンゴルキャンプ参加者に意向をお聞きして願います。
経費	支援金の残金で運営する。新たに必要が出てきた時は随時相談する。
会計	会計年度は1月1日に始まり、12月31日に終わる。
会議等	必要に応じて行う
	・顧問が必要な場合は、モンゴル障がい児教育研修にご協力くださった方の中より、意向をお伺いし願います。